

アカマツ

札幌 浜島 泉

昨日今日木肌輝くアカマツの磨き上げにし赤銅匂う  
苦しきに早や死なせてむと懇願す発作なるべし心理の津波  
停車位置移動しますと慎重に扉を閉ざすバス運転士  
西山のふもとの家の窓ガラス朝の日受けて烈火のごとし  
乗客が口に含みし肉桂の飴の匂ひか朝バスの中

CHAOS

釧路 兎玉 昌彦

天変地異なかつたごとく季はめぐり花咲く時節に引きずる心  
幾たびの大量絶滅乗り越えし生命進化の現在を想えり  
砂浜を埋め尽くしたる巻貝のむくろに見ゆる生の哀しみ  
海蝕に立ち枯れる木々白々と骨もあらわに墓標のごとく  
中空に摩天楼きざく人類もまた地球に棲める一生物にて

自問自答

旭川 稲積 文子

嫌いだからそのひと言の結論に吾れもまたただそれに従う  
問いかける言葉は空し亡き人の残せし歌集の行間さぐれど  
鳴き声にさそわれて後をつきゆけば餌をやり忘れた猫の空皿  
奇妙なる肌露出して街を闊歩する貧しさ故か豊かさ故か  
年輪を重ねし貌と対いて吾が年令と見比べる此の頃

北海道医歌人会詠草

通勤電車（戯画風に）

江別 三宅 浩次

通勤のいつもの駅でいつもの娘今日の化粧も愛らしく見え  
騒がしい女生徒らの生足を良しと思わぬ年齢となりたり  
疲れたる顔顔を乗せたまま通勤電車は今日も行く行く  
やあやあと顔は知ってる名が出ないじゃあまたとさりげなく  
優先の席と知っても知らぬ顔若き半兵衛狸寝入りか

流言蜚語

札幌 山口 康徳

デマ・ルーマ流す人らは恐怖のためか将また興味か  
かつて無き烈き災害救はむとつ国すべて協力惜しまず  
六十余年原爆惨禍彷彿すそを上回る範囲質量  
地をおほふ災害ものは時くれば人喜せむと桜は爛漫  
テロの元兇悪運尽きしや戦没す以後暗雲の晴るるを期し待つ

天変地異

札幌 古屋 統

原発を御上が採れば従いぬ教育勅語に育ちしわれら  
近世の二つの綺談原発の安全と大本営発表と  
産業の乏しき鄙に銭を敷き札びらかざし原発は来ぬ  
命がけ下請け作業者危地に入り司令指揮者の死は無き戦  
白血病放射線技師殉難の記憶が原発の事故につながる

成川美術館

美唄 吉村 誠治

雨の中朝一番に訪れし成川美術館静まりてあり  
景勝の芦の湖と富士見えずとも静かに展示の日本画に酔へり  
正面の「室戸旭日」に目を見張る牛尾武の大作と知る  
雪月花がテーマ毎に展示あり画家夫の威大さを知る  
三ヶ所の美術館巡り帰り来て感激醒めず浸る小湧園の湯